



社会保険労務士法人柳澤会計Support Letter

トピックス！ 電通新入社員の過労死自殺 遺訓の「鬼十則」が背景か？

10月7日、広告大手・電通の24歳女性新入社員が昨年12月に過労が原因で自殺した件について、自殺は長時間の過重労働が原因として労災に認定されていたという報道があり、以後この問題は様々なメディアで取り上げられ波紋が広がっています。

この女性社員は、東京大学文学部を卒業し、平成27年4月に電通に入社。同年10月からインターネットの広告部門を担当していました。半年間の試用期間を終えて本採用となったばかりで、人数不足と業務の増加に苦しんでいたようです。「遺族の弁護士の集計によれば、残業時間は昨年10月が130時間、11月が99時間。ただし、“70時間を超えてはいけない”という上司の指導で、会社へは10月は69.9時間、11月は69.5時間と過少に申告させられていた」とのこと。さらに、この女性社員を追い込んだのは上司からの悪質なパワハラでした。

■上司からの監視やパワハラも常態化

「君の残業時間の20時間は会社にとって無駄」「今の業務量で辛いのはキャパがなさすぎる」「会議中に眠そうな顔をするのは管理ができていない」などのパワハラ発言を繰り返され、疲れ切った身体に追い打ちをかけたと思われます。

■SNSの発信記録

過酷な通常業務に加えて、職場の宴会のための出し物作成や映像作成など休日返上で対応を求められています。SNSに追い詰められた心情が生々しく残されています。

「神様、会社行きたくないです」(10/4)

「休日返上で作った資料をボロくそに言われた もう体も心もズタズタだ」(10/13)

「眠りたい以外の感情を失った」(10/14)

「生きているために働いているのか、働くために生きているのか分からなくなってからが人生」(11/3)

「土日も出勤しなければならぬことがまた決定し、本気で死んでしまいたい」(11/5)

「毎日次の日が来るのが怖くてねられない」(11/10)

「道歩いている時に死ぬのにてきてそうな歩道橋を探しがちになっているのに気づいて今こういう形になってます…」(11/12)

「今から帰宅だが、どう見積もっても時間が足りないぞ？」(12/9午前4時)

「死にたいと思いながらこんなストレスフルな毎日を乗り越えた先に何が残るんだろうか」(12/16)

「なんらな死んだほうがよっぽど幸福なんじゃないかとさえ思って。死ぬ前に送る遺書メールのCC(あて先)に誰を入れるのがベストな布陣を考えてた」(12/17)

「1日20時間とか会社にいるともはや何のために生きてるのか分からなくなって笑けてくるな」(12/18)

「仕事も人生もとてもつらい。今までありがとう」(12/25)

その日、社員寮の4階から身を投げました。

■電通鬼十則

電通の社員手帳に今もある鬼十訓。ビジネスマンや社会人の心得が詰まった素晴らしい教えですが、もしかしらば、過労体質の背景にあるのかもしれない。

「鬼十則」

- ①仕事は自ら創るべきで、与えられるべきではない。
- ②仕事とは先手先手と働き掛けていくことで、受け身でやるものではない。
- ③大きな仕事と取組め！ 小さな仕事は己を小さくする。
- ④難しい仕事を狙え！ そして成し遂げるところに進歩がある。
- ⑤取組んだら放すな！ 殺されても放すな！ 目的を完遂するまでは、...
- ⑥周囲を引きずり回せ！ 引きずると引きずられるのでは、永い間に天地の開きができる。
- ⑦計画を持って！ 長期の計画を持っていれば、忍耐と工夫と、そして正しい努力と希望が生まれる。
- ⑧自信を持って！ 自信が無いから君の仕事には、迫力も粘りも、そして厚みすらがない。
- ⑨頭は常に全回転、八方に気を配って、一部の隙もあってはならぬ！！ サービスとはそのようなものだ。
- ⑩摩擦を怖れるな！ 摩擦は進歩の母、積極の肥料だ。でないと君は卑屈未練になる。



マンスリーピックアップ

「人を活かす会社」調査2016 総合ランキング

日本経済新聞社、日経HRとの共同企画で人材の多様化や能力を引き出す環境作りなど「人を活かす」取り組みを進める企業をランキング形式で評価する「人を活かす会社」調査の2016年版の結果が発表され、ジョンソン・エンド・ジョンソンが1位となりました。

同調査は6～7月、連結従業員1,000人以上の上場企業とそれに準ずる非上場有力企業462社の人事・労務担当者を対象に、アンケート調査を実施した結果に基づいています。

順位	昨年順位	社名	総合得点
1	18	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	460.17
2	5	イオン	454.6
3	1	SCSK	453.95
4	6	東京海上日動火災保険	451.31
5	13	花王グループ	450.24
6	9	ネスレ日本	447.3
7	12	損害保険ジャパン日本興亜	446.68
8	8	サントリーホールディングス	440.13
9	7	アサヒビール	437.62
10	16	三井住友海上火災保険	437.52
11	2	TOTO	436.09
12	21	日立製作所	434.31
13	3	富士フィルムホールディングス	433.43
14	4	セブン&アイ・ホールディングス	427.92
15	100	伊藤忠商事	425.96

調査は「雇用・キャリア」「ダイバーシティ経営」「育児・介護」「職場環境・コミュニケーション」の4側面に分類して各社の総合得点を算出しています。1位のジョンソン・エンド・ジョンソングループは部

長職以上は率先して連続2週間の有給休暇を取得するなど、ワークライフバランスへの取り組みや、1人当たりの年間総実働時間が前年に比べ72時間減ったことなどでポイントが高く評価されました。

イオンは、2013年グループ全体の女性管理職の比率を2016年度までに30%、2020年度までに50%とすると宣言。女性の働きやすい環境づくりに注力し、前年19%だった女性管理職率が22%に上がりました。

花王グループは育児休職からのスムーズな復職を支援するため、上司との休職・復職前面談や休職中の定期的な近況報告のしくみ（育児休職報告書）を導入している他、復職前セミナーを毎年開催し、8割が配偶者同伴で参加していて、男性の育休取得率が40%と高い割合となっています。

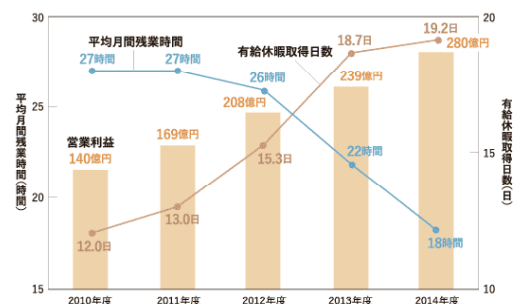
SCSKは「残業の大幅低減・有給休暇ほぼ100%取得」と「継続的な営業利益向上」の両立を実現したことで、世間から注目される存在となりました。

50時間の残業を20時間に短縮できたら、30時間の残業代は全部翌年のボーナスで戻すというような取り組みを行い、社員の健康と増収増益を達成しています。



花王のワークライフ・バランス標語リーフレット「明日に繋がる時間配分 ゆとりが生まれる充実生活」

■SCSKの営業利益と残業時間、有給取得日数の推移



毎朝出社し、夜に帰宅する。そのような働き方で斬新なアイデアが生まれるとは限りません。1日6時間仕事に集中し残りの時間を家族や自己啓発に使い、創造性を発揮する人もいれば、会社以外でアイデアを見つけ仕事に結び付ける人もいて、柔軟な働き方は生産性の向上につながる可能性があります。ただし、労働者の健康確保への取組みも生産性を上げる重要なポイントであることを忘れてはなりません。



秋色もいよいよ深まり、暖かな秋晴れが続く毎日です。秋といえば食欲にスポーツに読書に芸術と様々な「○○の秋」という風に表現されます。まずは、食欲の秋。輸送、栽培技術が発達した現代では一年中美味しいものがいつでも食べられますが、昔は秋が一番作物が豊富に収穫できた季節。これが、食欲の秋と言われる由来です。読書の秋。



これは、夏の暑さも一段落して夜が過ごしやすくなり本を読むのに最適です。次にスポーツの秋。この表現のきっかけは東京オリンピック。秋は元々体を動かすのに最適な気温なことから、スポーツに適している季節と言われてきました。そこに東京オリンピックの開会式が行われた10月10日が体育の日に制定され運動を楽しむ風潮が生まれたそうです。我が家では、もっぱらスポーツの秋。何をすることもとても素敵な季節ですね。（五味）